

観戦者増加を目的とした CGM 活用方法の検討 Applications of Consumer Generated Media for Increase of Spectators in Sports Event

1K09B015

指導教員 主査 木村和彦 先生

石原太地

副査 松岡宏高 先生

【目的】

本研究では、観戦者の少ない学生スポーツの観戦者増加を目的とした Consumer Generated media(以下 CGM)活用方法を実際のプロモーション活動を通じて検討する。①CGM の中で観戦者の少ない学生スポーツの情報拡散に有効なものは何かそこから実際に集客に繋がるものは何かを明らかにするとともに②SNSにおけるPRの仕方を直接宣伝、間接宣伝に分け、どの様なPRの仕方が観戦者の少ない学生スポーツの情報拡散に有効か、また集客に有効か把握することを目的とする。プロモーション対象は早稲田大学対抗慶應義塾大学ホッケー定期戦(以下、早慶ホッケー定期戦)であり早稲田大学ホッケー部と共同でプロモーション活動を実施した。

CGM を有効的に活用し、観客の集まらない学生スポーツにも多くの観客を集めたいという強い思いが本研究の動機にある。

【方法】

2012 年 11 月 23 日早慶ホッケー定期戦に向けて 10 月 24 日から 11 月 22 日までの約 1 ヶ月間、プロモーション活動を実施した。早稲田大学の学生、更には比較的スポーツへの興味・関心が高いであろうスポーツ科学部生・運動部所属学生をターゲットとした。集客という目的から CGM は SNS、動画共有サイト、ブログを使用。その中で利用者数の高い Twitter、Facebook、Youtube を使用。ブログはホッケー部が以前から使用していた goo ブログを使用。比較対象用として既存のホッケー部ホームページ内のトピックスの制作、広告・チラシの配布を実施した。

閲覧数・拡散状況(SNS)を調査する目的で 4 つの CGM、ホームページをネット上の分析ツールを用いて経過分析を実施した。

実際に集客に繋がるものは何か、SNS においてどのような PR の仕方が有効かを把握する目的で早慶ホッケー定期戦内にて観戦者を対象にアンケートを実施。統計的分析には SPSS18.0 を用いた。

【結果及び考察】

① ネット上の分析ツールにより goo ブログの閲覧者数が最も多いことがわかった。この結果より CGM、ホームページの中で観戦者の少ない学生スポーツの情報拡散に最も有効なものはブログであると

考えられる。goo ブログは Twitter、Facebook と比較して、以前から活発に使用していたものである。CGM の活用において投稿の「継続性」が重要であることが推察される。また、他の CGM と比較して最も選手の生の声に近い(プロモーションサイドがまったく操作していない)ものがブログであり、より自然な投稿が情報拡散に有効であると考えられる。

また、Twitter の Retweet 数と比較して Facebook の話題にしている人の方が多いことがわかった。拡散方法が Facebook の方が多様であり、拡散へのハードルが低いものがあることが理由ではないかと推測出来る。

アンケートの分析より CGM、ホームページ、広告・チラシの中で、Facebook を見て来た観戦者が最も多いことがわかった。この結果より観戦者の少ない学生スポーツのプロモーションの中で最も集客につながるものは Facebook であることが考えられる。次に多かったものは Twitter であり、SNS が集客に有効であることも考えられる。下から順に広告・チラシ、ホームページであった。高い費用をかけて広告・チラシを作ったり、維持費を払ってホームページを管理しても集客に意味をを持たない可能性がある。

さらに、若年者と中高年者の試合情報源を比較すると CGM を若年者が多く見ていて、有意差が見られた。ホームページに関しては中高年者の方が多かった。特に若年者をターゲットとしたプロモーションにおいては CGM を用いることは非常に有効であることがわかった。

② ネット上の分析ツールによると SNS の投稿を直接宣伝、間接宣伝に分類して比較すると、間接宣伝の方が情報をユーザーが自発的に拡散することがわかった。この結果より、間接宣伝の方がバイラル性が高いことが考えられる。宣伝色を出さない投稿の方がユーザーの共感を生み拡散につながるのではないかと推察される。

アンケートの分析により実際に観戦に訪れた人の投稿閲覧状況を比較すると直接宣伝の頻度が高かった。観戦者の少ないスポーツは比較的マイナーなスポーツであるため、認知度向上も兼ねた間接宣伝も必要であるし、実際に集客に繋がる直接宣伝もバランス良く組み込む必要があるのではないかと考える。